

グランプリ北海道

入賞プラン決定

ホタテ貝を活用した方解石の製造と産業利用



北海道の未利用資源を活用し、北海道におけるハイテク産業の活性化を図るべく、廃棄されるホタテ貝が我々の目標である。北の貝殻と家畜由来のバイオマス、特に地方部では大手マスマスエネルギーを用いて、企業の撤退や人口減少による半導体や通信事業での需要

最優秀賞

北海道大学大学院
野口 真司 (代表者)

未利用資源、光学用途の原料に

が見込まれる方解石の製造事業の立ち上げを目指す。北海道はホタテ貝の主要生産地である一方、大量に廃棄されるその貝殻を有効に活用する方法が限られている。また、北海道は産業界も盛んで、家畜のふん尿を利用するバイオマスエネルギーには大きなポテンシャルがある。我々は廃棄される貝殻を原料に、家畜由来のバイオマスをエネルギー源とし、光学用途が見込まれる方解石を高効率な結晶成長により製造することを計画している。北海道で方解石をつくり、今後の活性化が見込まれる半導体製造業者や通信設備業者への販売を通じて、北海道の持続可能な成長と地方の活性化を目指

最優秀賞に野口さん

CVG全国大会に出場

道内の学生によるビジネスプランコンテスト「CVG北海道」には今回、大学・大学院9校から27件のエントリーがあり、うち9校の21プランが審査対象となった。予備審査をくり抜けた5組による最終審査では各組の代表者が壇上に立ち、7分間のプレゼンテーションを行った。その後の質疑応答は審査委員の要望を受け、昨年度での5分から8分に変更。それでも時間ギリギリまで双方の活発なやりとりが交わされた。その結果、最優秀賞に北大院・野口真司さんが代表者の「ホタテ貝を活用した方解石の製造と産業利用」が選ばれた。予備審査から評価が高く、本審査でも審査委員の大半が最高得点を付けたという文句なしの受賞だった。野口さんらは2月27日に開催予定の全国大会に出場する。

最優秀賞に野口さん

CVG全国大会に出場

池田莉々香さんの「推しを応援する人」を応援する「推し活スタジオ」、努力賞に北星学園大学・萬原暉斗さんの「キッズキャリアコネクト」、子育て用品広告プロモーション、および札幌大学・佐藤拓さんらの「地域密着型 学生による高齢者支援システム」がそれぞれ選ばれた。例年同様、最終審査に進んだ全プランが入賞となった。

「第19回キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)北海道」実行委員会と日刊工業新聞社は2023年11月20日、札幌市中央区の札幌ガーデンパレスで最終審査会を開催した。厳正な審査の結果、最優秀賞を受賞した北海道大学大学院のグループをはじめ、5組の入賞プランを決定。同日、表彰式と祝賀会も開き、受賞した学生と実行委員、審査委員に後援・協賛企業団体の関係者らも加わり、久々のパーティー形式で交流を深めた。



ごあいさつ

CVG北海道実行委員会委員長

藤井 裕

事業化への熱意と努力心から応援

CVG北海道は、明日の北海道を担う若者たちこもった応募をいただき、北海道の起業家精神を養い、創造力やチャレンジ精神に富む人材、問題を発見し、解決していく力を持つ人材の育成を目的に毎年開催しているもので、すでに19年の歴史をもつ伝統的なコンテストです。今年も例年同様、北海道内をより使いやすくするための工夫など、発想と着眼点に優れたものばかりでした。何よりも自分たちが考えたプランを事業化に結びつけようとする熱意と努力が感じられ、心から応援したいと思いに駆られました。

「ご承知のとおり、日本は人口減少社会であり、特に北海道は全国より10年早く人口が減少に転じ、労働力の減少が非常に大きな問題となっています。さらに、昨今のエネルギー高や円安による急激な物価高騰により、北海道経済は打撃を受け、大変厳しい状況にあります。」

一方で、コロナの5類移行により観光客が回復傾向にあり、次世代半導体製造のラピダス社の進出や関連する周辺産業が準備に動き出すなど、明るい兆しも見えてきています。

最後に、共催の日刊工業新聞社、ご協賛・ご後援いただきました関係者の皆さま、鈴木審査委員長をはじめとする審査委員の皆さまに厚く御礼申し上げます。



コロナ禍が収束し、表彰式後の記念撮影も出席者全員での集合写真が可能に

救急医療 高機能AEDしゅんじ君



私たちのビジネスモデルは「AED(自動体外式除細動器)に通信機能を持たせ、救命率を高めることにつなげていく」というもの。AED本体にインターネット回線を導入し、IoT(モノのインターネット)を活用したAED管理システムの構築や位置情報の共有などを行う。加えてAED救命アプリを開発し、通信機能を持ったAED(高機能AED)と連携し、

優秀賞

札幌大学 伊藤 清美 (代表者)

通信機能とアプリで救命率高める

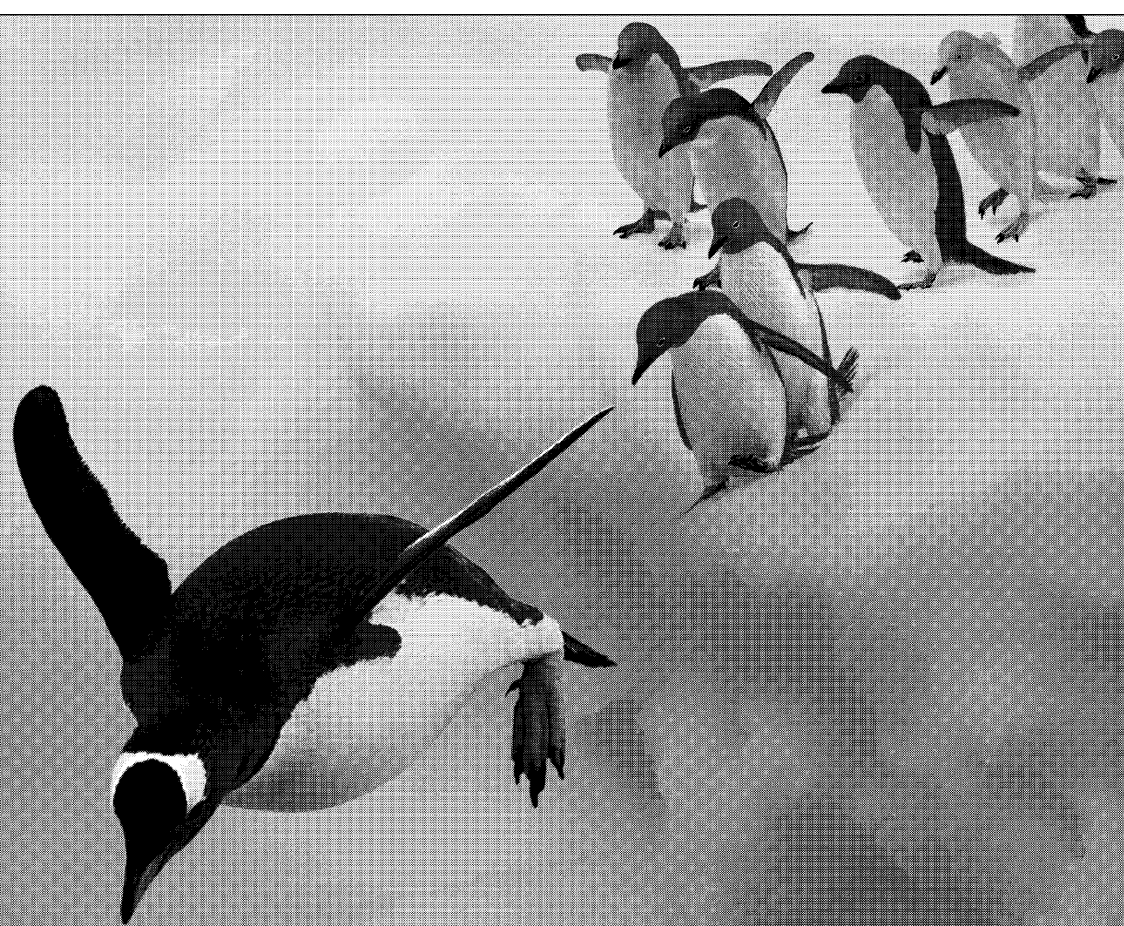
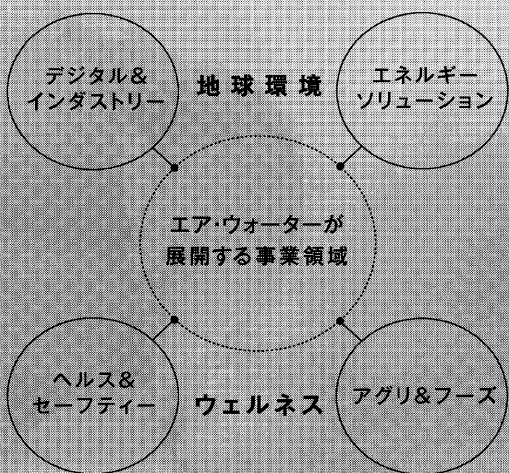
救命率のさらなる向上に努める。高機能AEDとAED救命アプリを救急医療現場に根付かせることで、救命までの大幅な時間短縮を生み出し、救命率の向上につなげる。またAED収納BOXに広告宣伝用のサイネージを付加する。このサイネージから情報発信を行うことで、存在の見えにくかったAEDが人々の目に留まり、AEDの「見える化」につなげていくと考える。目の前の人を倒れていたその時、私たちが瞬時に行動することで、その人の社会復帰率は3倍にもなる。知識・経験、市民の連携があれば必ず救える命だ。「私たちが「尊い命」を救いませんか」。

第19回CVG北海道実行委員会 (敬称略)

- | | | |
|-------|-------------------|-----------------------------|
| (委員長) | 藤井 裕 (北海道経済連合会会長) | 岩田 圭剛 (北海道商工会議所連合会会頭) |
| (委員) | 岩永 正嗣 (北海道経済産業局長) | 宮崎 高志 (北海道商工会連合会会長) |
| | 鈴木 直道 (北海道知事) | 福島 知之 (北海道科学技術総合振興センター専務理事) |
| | | 井水 治博 (日刊工業新聞社社長) |

地球環境とウェルネスで、サステナブルな未来に挑む。

私たちエア・ウォーターは、空気や水といった地球の資源を原点に、新しい事業をつくり、新しい価値を生み出し、さまざまな社会課題に挑みながら成長してきた。そして今度は、地球環境とウェルネスという2つの海に飛び込んでいく。目指すは、地球・社会との共生によるサステナブルな未来。勇気とワクワクを胸に、これからもチャレンジを楽しむエア・ウォーターです。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

エア・ウォーターは「地球環境」と「ウェルネス」の2つを基軸に据え、SDGs達成に向けた取り組みを行っています。

エア・ウォーターグループのSDGsに対する取り組みについて詳しくは

エア・ウォーター SDGs 検索

地球の恵みを、社会の望みに。



第19回 キャンパスベンチャー

奨励賞

小樽商科大学 池田 莉々香

「推しを応援する人、を応援する推し活スタジオ」



推しに会うために美しくなりたい方、必見の推し活スタジオ。「推し活」がトレンドになっていく今、推しのためならお金も時間も惜しまないという人は多いだろう。このスタジオは「推しのライブは最高のコンサート」で行きたい、フェスで飛び続けるための体力がほしい。しかし、ダイエットや筋トレなんて続かない」という気持ちから生まれた。同じ趣味の人と出会い、モチベーションを高め合いつながりながら運動ができる。ヨガやダンス、エアロビクスなど多様なレッスンが設けられていて飽きずに

ファン同士が交流 気軽に運動

通うことができ、この交流をきっかけに推し活仲間も増えるという魅力がある。ファン同士が交流する機会は現状少ないため、実際に会って推しについて語り合えるのは貴重な体験だと考える。美しくなりたい自己肯定感も上がり、推し活がさらに楽しいものになる。そんな胸が踊る空間である。将来的には推しからの応援メッセージを聞きながら運動したり、振付師やアーティストの方をお呼びしてファンのみならず踊ったりするのが夢だ。



前回までより質疑応答時間が長くなり、プレゼンの力が一層、問われる本審査となった

努力賞

キッズキャリアコネクト 子育て用品 広告プロモーション

北星学園大学 葛原 遥斗 (代表者)



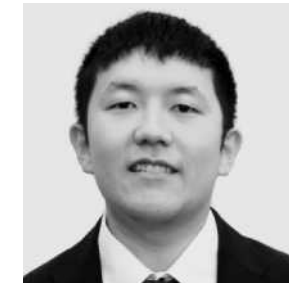
私たちが提案する「キッズキャリアコネクト」は、経済的に恵まれない子どもたちに広告を印刷した育児用品を配布することで、貧困問題の解決の一助とすると同時に、企業広告を印刷した製品を配布することによって、潜在的認知度の向上が期待できること。例えば、その製品を使っている子どもの親や知人が見たとときに企業認知度の向上を狙える。企業側は貧困問題の解決に参加しているという広報・宣伝を行うことができ、さらに製品を広告媒体としても配布できる点にもメリットがある。

企業認知度向上に一役

私たちは子育てにかかる費用負担を軽減し、子どもたちがより豊かな生活、学業を行うに支えたいという目標を掲げている。

地域密着型 学生による高齢者支援システム

札幌大学 佐藤 拓 (代表者)



私たちが提案する「地域密着型高齢者支援システム」は、学生と高齢者と地域がつながるマッチングサービスモデルであり、高齢化社会の進展により、買い物難民や孤独死などの社会課題が増加している。そこで、新しい時代地域が持つ高齢者との見直し、高齢者と学生に焦点を当て、学生の隙間時間を利用して、地域の高齢者に寄り添い、日常生活を支援するサービスを開発した。

寄り添い 地域の輪をつなぐ

私たちが最終目標は地域の学生と高齢者が交流を深め、学生・高齢者・地域の三者が助け合う共生社会を目指すことである。新しい時代の地域活性化に貢献していきたい。

審査講評



CVG北海道審査委員会委員長

鈴木 馨

今回もさまざまな社会課題について提案者の皆さんの独自の着想で解決を目指す内容の提案が多く、大変興味深く感じました。一方で、それぞれの理念やアイデアはとも素晴らしいと思うのですが、比較的容易

に得られる情報を基にして課題を設定し、その解決に向けた仕組みの提案に留まってしまう傾向も見られました。もう少し現場の状況を直接体験したり、詳細に調査したりすることで、実際に事業化する際の課題や事業の内容、どのようにして収益を得て、さらにどのように発展・展開していくかなどを俯瞰的に

能な方解石を作ることが、優秀な提案では自動体外式除細動器(AED)に接続して通信機能とサイネージ機能を持つインターフェース回路を開発することなどが、提案の基本となっていました。目に見えるモノを必要としないような仕組み作りと専用アプリ開発のような提案の場合であっても、既存のものに対するオリジナリティや優位性をより明確にすることが必要かと思えます。今後のさまざまな活動の参考になれば幸いです。

事業化へ深掘り・ブラッシュアップを

なぐ。支える。事業を、地域を。

JFC 日本政策金融公庫 札幌支店

日本公庫は民間金融機関の取組みを補完し、事業に取組む方々等を支援する政策金融機関です。中小企業・小規模事業者、農林漁業者の皆さまのさらなる発展を応援します。

小規模事業者の方 0570-000202 国民生活事業 農林漁業者の方 011-251-4261 中小企業の方 011-281-5221

第19回CVG北海道審査委員会 (敬称略)

〈委員長〉	小貫 秀治 (北海道発明協会専務理事)
鈴木 馨 (産業技術総合研究所北海道センター所長)	庫元 達也 (エア・ウォーター北海道事業連携部長)
〈委員〉	瀬尾 暢宏 (戸田建設札幌支店長)
田北 剛 (北海道経済産業局産業部経営支援課長)	里見 英樹 (メディア・マジック代表取締役)
菅野 則彦 (北海道経済部地域経済局中小企業課長)	小塚 友平 (日本政策金融公庫国民生活事業本部北海道創業支援センター所長)
橋場 参生 (北海道立総合研究機構産業技術環境研究本部部長兼工業試験場長)	廣瀬 岳史 (NoMaps実行委員会事務局長)

第19回 キャンパスベンチャーグランプリ 北海道を応援しています。

※順不同

北洋銀行

株式会社北洋銀行

HNBC

Since 1987

一般社団法人
北海道ニュービジネス協議会

Media Magic

株式会社メディア・マジック

SUNAGO

株式会社砂子組

Growing with the region